

令和7年度 地域連絡会議

日時 令和7年12月3日 16:00～16:15
場所 国立病院機構やまと精神医療センター デイケア棟体育館
議題 1. やまと精神医療センターの運営状況
2. 医療観察法病棟（5病棟）の運営状況
3. その他

院長挨拶

本日は、年末で大変ご多忙の中お集まりいただき誠にありがとうございます。
おかげさまで1年間やまと精神医療センターおよび医療観察法病棟は大過なく過ごすことができました。これから運営状況についてご説明させていただきますが、皆様の忌憚なきご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

1. やまと精神医療センター運営状況

・患者数の状況（直近一年間）

まずはやまと精神医療センターの運営状況について説明いたします。

当院は精神病床と一般病床に分かれており、精神病床については4つの病棟で構成されております。1-1病棟では、急性期の精神疾患患者を受け入れており、病床数は44床です。1-2病棟は精神療養病棟で入院期間は比較的長く、病床数は54床です。2病棟は主に認知症のある方と最近は数が非常に少なくなっていますが結核合併症患者の入院も受け入れており、病床数は50床です。

5病棟が本日の連絡会議の対象となっている医療観察法病棟で、病床数は35床あります。これら精神病床の合計は183床となります。一般病床は3病棟、4病棟の2つありますが、どちらも重症心身障害者の病床であり、それぞれ50床ずつの計100床となります。病院全体の病床数は合計283床となります。

続いて、各病棟についてご説明いたします。

1-1病棟は急性期病棟であり、入院期間の目安は3ヶ月となっています。資料に記載のとおり、直近1年間での一日平均入院患者数は病床数44床に対し36～37名です。

1-2病棟は療養病棟で比較的入院期間が長くなっており、直近1年間での一日平均入院患者数は病床数54床に対し43～44名です。

2 病棟は慢性期病棟で主に認知症や結核の合併症のある方が入院していますが、最近は入院患者数が低迷しており、直近 1 年間で見ても病床数 50 床に対し一日平均入院患者数は 33 ～34 名となっています。コロナ禍では半数以上の病床をコロナ専用病床として受け入れていました。

5 病棟は医療観察法に基づく指定病床が 33 床、保護室が 2 床で合計 35 床です。直近 1 年間の一日平均入院患者数は約 33 名で、病床利用率は非常に高くなっています。詳細はこの後、担当医師よりご説明いたします。

3 病棟、4 病棟はいずれも重症心身障害患者が全病床入院されており、常に満床状態となっています。

病院全体の病床利用状況をまとめてあります。直近の数字では一日平均で約 247 名が入院されており、病院全体の病床利用率は約 87%となっています。多くの医療機関と同様にコロナ前の患者数までなかなか回復せず、コロナ前と比べると一日平均で 10 名強少ない状態が続いています。

外来患者数ですが、一日平均の外来受診者数は約 95 名となっています。

デイケアは、精神疾患のある患者が社会復帰を目指して昼間に通院してリハビリを受けており、1 日平均の利用者数は約 15 名です。

当院では平成 29 年 4 月に訪問看護ステーションを開設して活動しています。主に当院を退院した患者が利用されており、1 日平均の訪問数は約 13 名です。

《質疑応答》特になし

2. 医療観察法病棟（5 病棟）の運営状況

医療観察法病棟の運営状況について報告いたします。

まず、入退院の実績について、平成 22 年開棟以来累計で 193 名が入院され、159 名が退院されています。毎年 10 名程度が当院へ入院されていますが、今年度についてはこれまで 8 名の入院、6 名の退院となっております。

入退院累計及び在院対象者数は常時 32～35 名程が入院されており満床に近い状況です。10 月末時点では 35 名が入院されており満床となっていました。

年代別の在院者数は男性 25 名、女性 10 名となっていますが、30～50 代の方が多くっており、70 代の方も 4 名入院されています。

次に地域別ですが現在入院中の患者は居住地が近畿厚生局管内となっており、都道府県別にみると兵庫県が 11 名と一番多く次いで大阪府、和歌山、奈良・京都と続いています。

次の対象行為別（事件名）ですが傷害事件を起こした人が一番多く 14 名となり、次に殺人未遂・放火が 8 名、傷害致死、殺人、不同意性交等未遂と続いています。

疾患別患者数は統合失調症が 25 名と一番多くなっていますが、過去の実績においても、

おおよそ同様の割合で推移しております。

ステージ別推移ですが医療観察法の入院期間は、急性期・回復期・社会復帰期と呼ばれる3つのステージで構成されており、入院直後は急性期からスタートとなります。各ステージにおける治療課題をクリアすることで次のステージに進むという流れとなります。回復期ステージは治療課題をクリアするのに時間がかかるため長い期間設定されています。

そのため回復期は常に一番多い状況となっておりまして、令和7年10月末時点では急性期6名、回復期19名、社会復帰期10名となっております。

外出実績については月10件程度で推移しています。1月までは20件を超えていますが、身体疾患の治療のため件数が増となっております。外泊実績は月2～4件程度となっております。

隔離拘束件数について、精神科では精神症状が悪い場合、患者の安全を守るため必要に応じて隔離や拘束という処置をとることがあります。令和7年度現時点で拘束の実績は1件となっております。隔離は月1～2件となっております。

《質疑応答》

自) 外泊、外出、院内散歩の際に問題はなかったでしょうか？

セ) 特に問題はございませんでした。

本日の議事録は、後日皆様への郵送の他、当院のホームページへも掲載いたします。

それでは、以上をもちまして、今年度の地域連絡会議を終了いたします。

本日はお忙しい中ご参加いただきありがとうございます。今後とも当院の運営にご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

以上